

令和元年度学校評価について

(1) 教職員による自己評価にみられる特徴

昨年度に比べて全体として肯定的な意見の項目が増加している。教職員のアンケート結果の特徴的な点を下記に挙げる。

・ C評価であった項目

設問 2 「総合学科に関わる系列の委員会が活発に活動している。」

平成30年度 C46% → 令和元年度 C45%

昨年度とほぼ同等の評価である。系列の委員会を活性化させるために委員の構成を今年度から変更したが、結果的にはあまり活発には活動出来なかった。日々の業務の中で系列についてじっくり検討する時間が取れなかったことが要因であると考えられ、今後さらなる改善方法を考える必要がある。

・ 肯定的評価の割合が昨年度と比べて10%以上の増減があった項目。

設問 4 「本校では、チャイムとほぼ同時に授業が始められている。」

平成30年度 A85% → 令和元年度 B68% (17%減)

携帯電話やスマートフォンを確実にしまってから授業に入るように、取り組んだ結果チャイムと同時に授業が始めることができなかった事があると思われる。携帯電話やスマートフォンの扱いについては、今後さらなる検討が必要である。

設問 8 「本校は、問題行動の早期発見と防止に努めている」

平成30年度 A80% → 令和元年度 A90% (10%増)

課題を抱える生徒に対して真摯に対応しようと、意識的に取り組んだ結果肯定的評価が増えたと考えられる。

設問 12 「本校は、生徒の実態や学年段階に応じたLHRや学校行事を適切に行っている。」

平成30年度 A88% → 令和元年度 A98% (10%増)

設問 16 「本校は、図書館・情報センターとしての機能を充実させている」

平成30年度 B68% → 令和元年度 B78% (10%増)

設問 21 「本校は、日々の清掃活動・除草作業を通して学習環境を行っている。」

平成30年度 C49% → 令和元年度 B65% (16%増)

設問 23 「本校は、施設・設備の点検を日常的に行っている」

平成30年度 B78% → 令和元年度 A90% (12%増)

設問 24 「本校は、全教員が文書管理を適切に行っている」

平成30年度 A80% → 令和元年度 A90% (10%増)

設問 26 「本校は、高大連携事業等を通じ、学ぶことの意欲と進路意識の高揚をはかっている。」

平成30年度 C54% → 令和元年度 B68% (14%増)

(2) 生徒による自己評価にみられる特徴

昨年度に比べて結果は、大きな変化はないといえる。生徒のアンケート結果の特徴的な点を下記に挙げる。なお、図書館に関する設問8については、今年度より質問内容を変更した。

・ D評価であった項目

設問 8 平成30年度「私は、学校図書館の本を借りたことがある。」 C 60%

令和元年度「私は、読書の意欲を高めるため、定期的発行される「図書館便り」を読んでいる。」 D 36%

・ C評価であった項目

設問 7 「私は、学校図書館の本を借りたり、授業やレポート作成などで学校図書館を利用したことがある。」

平成30年度 C 53% → 令和元年度 C 47% (6%減)

設問7・8とも図書に関する設問に関して、肯定的な意見が少ない。本校に限ったことではないが、読書離れが進む傾向が進んでいると言える。図書館の活動として、生徒の興味関心のある書籍をそろえるほかにも、図書館便りの定期的な発行や高校総体中の一斉読書、春秋の読書週間など様々な取組を行ってもらっている。今後不読書率を上げるためには、図書担当者だけでなく、全国的な取組が必要であると考えられる。

設問 6 「私は、部活動に励んでいる。」

平成30年度 B 63% → 令和元年度 C 59% (4%減)

若干であるが、減少傾向にある。そもそも入部していない生徒も一定数いる。(1年24%、2年18%、3年43%) 部活動の在り方、活動についても検討すべきことはあるといえる。

(3) 保護者による自己評価にみられる特徴

昨年度に比べて全体として肯定的な意見の項目が増加している。(12項目)

残念なのは、アンケートの回答率が低かった点である。来年度以降、より保護者の意見が反映できるよう回収率の向上の方法も考えていく必要がある。

保護者のアンケート結果の特徴的な点を下記に挙げる。

・ D評価であった項目

設問 15 「子どもが家で勉強している姿をよく見かける。」

平成30年度 C 44% → 令和元年度 C 40% (4%減)

家庭での学習がほとんどできていない生徒が、一定割合を占めており学校生活の中心である学習が、おろそかになっている傾向があるといえる。家庭学習を実施させる対策を考えていく必要がある。

・ C評価であった項目

設問 1 4 「学年通信などの配布物で行事等についてある程度のことは分かっている。」

平成30年度 C54% → 令和元年度 C58% (4%増)

学級通信や図書館だよりなど様々な通信が発行されているが、なかなか保護者に届かない現状がある。HPに通信等をできるだけ掲示し、保護者に確認してもらうなどの方策を考えていくことが求められる。

・ 肯定的評価の割合が昨年度と比べて10%以上の増減があった項目。

設問 9 「学校は福祉・ボランティア活動を推進している。」

平成30年度 B67% → 令和元年度 B78% (11%増)

設問 1 0 「学校は生徒の健康管理と病気の予防に努めている。」

平成30年度 C58% → 令和元年度 B71% (13%増)

設問 1 2 「学校は差別等のない明るく、生き生きとした学校づくりに努めている。」

平成30年度 A67% → 令和元年度 A78% (10%増)

生徒の体調や生活面の支援では、一定理解していただいている結果である。今後も心身面で課題を抱える生徒に関しては、問題の早期発見に努め学校として対応していくことが必要だと考えられる。

(4) 3者(生徒・教職員・保護者)の自己評価に乖離が見られる項目

多くの場合、取り組みを進めている側の教職員の自己評価が高く、生徒・保護者の自己評価が低くなる傾向がある。その中でも、特に意識の乖離があるものとして次の4項目をあげた。

学習指導

生徒設問 1 「私は、チャイムが鳴る前に着席し、授業の準備をしている。」

教職員設問 5 「全教員が学習意欲の喚起と基礎学力の定着に努めている。」

保護者設問 1 「学校は子どものやる気を起こさせ、基礎学力の定着に努めている。」

生徒 A90% — 教職員 A90% — 保護者 B73%

生徒、教職員とも学習に対する取組を前向きに行っているという値が90%あるが、保護者には、取組状況が不十分であるという思いも多いようである。家庭学習をしている姿を見ることが比較的少ないなどが、そのように認識される要因であろうか。

生徒指導

生徒設問 3 「私は、服装や頭髪などの校則を守っている。」

教職員設問 7 「全教員が生徒の規範意識の高揚を図り、基本的生活習慣を身につけさせている。」

保護者設問 3 「学校は生活指導に力を入れ、社会のきまりを身につけさせている。」

4 「服装や頭髪などの校則は適切である。」

生徒 A90% — 教職員 B68% — 保護者 B68%

生徒の意識としては、おおむね校則を守っているという人が90%いるが、教職員、保護者から見ると共に68%という値である。校則を守るというイメージが、生徒と教職員、保護者の間に違いがあるのではないだろうか。

特別活動等

生徒設問 6 「私は、部活動に励んでいる。」

教職員設問 13 「本校は、生徒会活動・部活動の充実と地域ボランティア活動への積極的な参加を促している。」

保護者設問 8 「学校では部活動が活発に行われている。」

9 「学校は福祉・ボランティア活動を推進している。」

生徒 C 59% — 教職員 A 93% — 保護者 B 76%

学校図書館

生徒設問 7 「私は、学校図書館の本を借りたり、授業やレポート作成などで学校図書館を利用したことがある。」

教職員設問 16 「本校は、図書館・情報センターとしての機能を充実させている。」

18 「本校は、読書の意欲を高めるため、定期的に図書館報を発行している。」

生徒 C 47% — 教職員 A 86%